

2. 子ども虐待による死亡事例等の検証結果（第12次報告の概要）

対象

厚生労働省が、都道府県、指定都市及び児童相談所設置市（以下「都道府県等」という。）に対する調査により把握した、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの12か月間に発生し、又は表面化した児童虐待による死亡64事例（66人）を対象とした。

| 区分 | 第12次報告 | | | （参考）第11次報告 | | |
|----|----------|-----------------|----|------------|-----------------|----|
| | 心中以外の虐待死 | 心中による虐待死（未遂を含む） | 計 | 心中以外の虐待死 | 心中による虐待死（未遂を含む） | 計 |
| 例数 | 43 | 21 | 64 | 36 | 27 | 63 |
| 人数 | 44 | 27 | 71 | 36 | 33 | 69 |

未遂とは、親は生存したが子どもは死亡した場合をいう。

検証・分析**（1）死亡事例：心中以外の虐待死事例（43例・44人）**

※対象期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日の1年間

○子どもの年齢

- ・0歳が最も多く、例年以上に高い割合を占める。
 ・0歳：27人（61.4%） ※1～11次：256人（44.0%）
 ・うち月齢0か月：15人（55.6%） ※1～11次：115人（44.9%）

○主な虐待の類型

- ・身体的虐待が最も多いが、例年以上にネグレクトが高い割合を占める。心理的虐待による死亡事例が初めて発生した。
 ・身体的虐待24人（54.5%） ※1～11次：386人（66.3%）
 ・ネグレクト15人（34.1%） ※1～11次：154人（26.5%）
 ・心理的虐待1人（2.3%） ※1～11次：なし

○実母の抱える問題

- ・例年以上に「望まない妊娠／計画していない妊娠」、「妊婦健診未受診」が高い割合を占める。
 ・望まない妊娠／計画していない妊娠24人（54.5%） ※1～11次：110人（21.7%）
 ・妊婦健診未受診18人（40.9%） ※1～11次：110人（21.7%）

○加害の動機

- ・「子どもの存在の拒否・否定」が高い割合を占める。
 ・子どもの存在の拒否・否定14人（31.8%） ※2～11次：47人（8.4%）
 ・保護の怠慢5人（11.4%） ※2～11次：86人（15.4%）

（※）この他、心中による虐待死事例（21例・27人）についても、同様に検証・分析を行っている。

（2）重症事例（10例・10人）

※調査対象：平成26年4月1日～6月30日の3か月の間に児童相談所が受理した生命の危険に関わる受傷、衰弱死の危険性がある等の事例

○子どもの年齢

- ・0歳が最も多い。
 ・0歳：8人（80.0%）、4歳：1人（10.0%）、6歳：1人（10.0%）

○主な虐待の類型と受傷の要因

- ・身体的虐待が7割、ネグレクトが3割。受傷原因は頭部外傷が8割。
 ・身体的虐待7人（70.0%）、ネグレクト3人（30.0%）、頭部外傷8人（80.0%）

○関係機関の関与

- 〔重症の受傷以前に児童相談所の関与あり：4例（40.0%）、重症の受傷以前に市町村（虐待対応担当部署）の関与あり：3例（30.0%）〕